

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月日実施)	総合評価 (月日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①アクティブ・ラーニングの視点とユニバーサルデザイン授業の視点により、ハイテンポで「力の付く授業」を構造化する。 ②科学的・論理的な思考力・判断力・表現力、問題発見・解決能力(探究力)、自学力を育成する。 ③「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実により能力を伸長させる。	①公開研究授業や研究協議を通して、「個→協働→個」「内化→外化→内化」の構造を持つ授業に組織的に取り組み、思考力・判断力・表現力を高める。 ②③情報活用推進委員会及び理数教育推進プロジェクトチームの活動を充実を図り、組織的な授業改善や探究的な学び、一人一台端末の活用の充実を図る。	①各授業において、本時の目標となる「問い」=思考・表現・判断を伴う「問い」の工夫を行い、グループワークの充実を図る。 ②令和7年度から設置する理数探究基礎の学習内容、授業形態等を決定する。 ③スマートフォンではできないICT機器を活用した学習活動を促進し、組織的に授業改善を行う。資料や説明スライドの提示や読解、授業のまとめの文章入力、Google Workspace の利用による協働学習等、一人一台端末の活用の拡充を図る。	①生徒による授業評価項目5(他者との思考の共有・深化について)及び6(課題解決について)の「4」の回答が40%以上になったか。また、能力育成の指標の1つとして、ルーブリック評価を活用できたか。 ②理数探究基礎の学習内容、授業形態等を決定できたか。 ③生徒による授業評価項目8(ICTの活用について)の「4」の回答が40%以上になったか。					
2	生徒指導・支援	●「全ての生徒は支援を必要としている」という「神奈川の支援教育」の原点に立脚し、あらゆる教育活動を「支援」の視点から充実させる。	●「過ごしやすい学校生活」を送るために社会生活上での規範意識やマナー等、自己指導能力の育成を図る。様々な課題を持つ生徒へ適切に対応するため、教育相談体制を充実させ、報告、連絡、相談が円滑に行われるようにする。	①自転車乗車時のヘルメット着用の啓発や登下校時の交通安全指導の充実を図る。 ②情報モラル教育を進めるとともに保護者の理解を促進する。 ③SSW やSCと連携し、プッシュ型面談等を通し、生徒との面談の確保を図り、生徒理解に努める。	①自転車通学における安全運転への意識やヘルメットの着用率、マナーが向上したか。 ②SNS 利用に関し、生田メディアポリシーを理解させ、情報モラルに対する意識を育てられたか。 ③サポートドックを活用し様々な問題を抱える生徒に対応できる相談体制、相談室の整備ができたか。また、学年会が情報の共有化にとどまることなく、ケース会議的に行われたか。					
3	進路指導・支援	①あらゆる角度から能力を伸長させ、「不確実で複雑な時代」を生き抜く「主体的な意志のある自立した『個』」の基盤を育成する。 ②能力伸長を当面の進路希望に結実させる。	①理数教育を推進するために、学際的なテーマの授業等を通して、「総合的な探究の時間」と各教科・科目との連携をさらに深める。 ②能力伸長を促進するために、面談を活用した進路指導の充実を図る。	①各教科・科目の学びを探究的活動の知識・技能につなげる。また、ICT機器を活用して言語能力、情報活用能力を育成する。 ②面談については担任の負担軽減や質の向上に向けて、指導のポイントの共通化を進める。	①「総合的な探究の時間」と各教科・科目との連携がどの程度できたか。 ②面談内容の共通化や質の向上が図れたか。					
4	地域等との協働	●保護者等、地域の方、学識経験者などの学校運営参画を促し、育てたい生徒像の共有と実現、学びの充実、資質・能力の育成を図り、社会に開かれた教育活動を実現する。	●地域との交流を促進し、社会に貢献する資質能力の育成とコミュニケーション能力、協働的な姿勢を育成する。	●学校運営協議会の活動を活性化させる。 ●地域貢献活動を全学年で実施する。また、新しい地域交流のあり方を検討する。	●学校運営協議会を通じて、委員の方に学校運営に参画してもらうことができたか。 ●地域貢献活動を実施できたか。新しい地域交流のあり方を検討できたか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月日実施)	総合評価(月日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5	学校管理 学校運営	①一人一台端末を有効活用するための施設・設備等の充実を図る。 ②働き方改革を推進する。在校等時間の縮減にあたっては、全体の時間の効率化と個人の時間の効率化の両立を図る。	①高等学校DX加速化推進事業により、施設・設備等の充実を図る。 ②働き方改革を推進し、教職員のワークライフバランスの充実を通して、業務の効率化を図り、教育力を向上させる。	①各授業において、タッチペン利用とペーパーレスを促進する。視聴覚教室及びICT2教室の整備や特別教室へのプロジェクター型電子黒板の設置等、DX加速化推進事業により、施設・設備等の充実を図る。 ②ノー残業デー、振替ノー残業デーを推進する。スクラップ&ビルドの視点をもって、業務のスリム化・効率化を図る。	①各授業において、タッチペン利用とペーパーレスを促進できたか。視聴覚教室及びICT2教室の整備や特別教室へのプロジェクター型電子黒板の設置ができたか。 ②ノー残業デー、振替ノー残業デーが徹底できたか。職員の在校等時間が縮減したか。					